

授業グレードアップ! Vol. 1

"地図" を授業に活かす ～小学6年歴史「元との戦い」～

社会の部屋では、社会科の授業をよりよいものにグレードアップするためのポイントをシリーズで紹介していきます。1回目の今回からは、「地図」の活用について、数回に渡って紹介していきます。



〈地図活用の必要性〉

社会科では、社会的事象を対象にして、「空間軸」「時間軸」「社会軸」から社会の見方や考え方を学びます。その中の「空間軸」から学ぶためには、地図は必要不可欠です。

〈歴史学習でも地図は大切〉

地理学習だけでなく、歴史学習でも地図は大切です。歴史上の出来事が起こった地名や人物の出身地がどこにあるのかを地図で確認することは、歴史的事象を空間的な広がりの中で捉えさせる上で大切な学習活動です。

そこで今回は、小学6年「元との戦い」の事例をもとに、歴史の授業で「どのように地図を活用したらよいか」について、具体的に紹介していきます。

〈歴史学習における地図活用の実際〉

『小学校学習指導要領解説 社会編』に、次のことが記されています。

「元との戦い」について調べるとは、例えば、北条時宗が全国の武士を動員して元の攻撃を退けたことなどを取り上げて調べ、幕府が全国的に力をもってきたことが分かるようにすることである。

上記のねらいを達成するためには、地図の活用が必要です。なぜならば、「全国」という空間的な広がり、具体的な事象をもとに認知させなければならないからです。

元との戦いの授業では、多くの先生方が、「蒙古襲来絵詞」を中心資料として扱います。教科書に載っている、馬に乗った鎌倉幕府の御家人・竹崎季長が、集団戦法の元軍と戦う様子を描いた有名な一場面です。この資料を読み取らせる際に、地図を併せて活用します。

〈地図活用その1〉博多と鎌倉の位置を地図で確認させる。

まず初めに、元との戦いの舞台となった博多と幕府のある鎌倉の位置を地図で確認させます。

子どもたちは、戦地となった博多と幕府のある鎌倉の距離が随分離れていることに気付きます。(青の矢印)



鎌倉から随分離れているけれど、
武士は集まったのかな・・・



〈地図活用その2〉熊本（宇城市）の位置を地図で確認させる。

次に、竹崎季長の地元、熊本県宇城市の位置を地図で確認させます。そして、肥後国の竹崎季長が、わずかの家来を引き連れて博多にすぐに駆けつけたことを説明します。(赤の短い矢印)

このことから、子どもたちは、鎌倉幕府の力が九州にまで及んでいたことに気付くでしょう。(赤の破線矢印)

また、元との戦いの翌年、恩賞をもらえなかった季長が、遠く鎌倉まで出かけ、恩賞奉行の安達泰盛に陳情したという事実から「先懸の功」や「一所懸命」についての理解を深めることもできます。(赤の長い矢印)



幕府の力は遠く九州に
まで及んでいたんだ！



このように、地図を活用することにより、「鎌倉幕府が全国的に力をもってきた」という歴史的事象を、空間的な広がりの中で捉えさせることができます。

次回は、**中学地理「世界の諸地域」(アフリカ州)**における地図活用について紹介します。

